

サステナビリティ

Sustainability

リンテックグループのCSRの根幹は、社は「至誠と創造」にあります。

> トップメッセージ



> リンテックグループの考え方、体制



マテリアリティとKPI



トピックス

会社情報

2025年1月8日
【ニュースリリース】 SBT認定取得に向けたコミットメントレターを提出

サステナビリティ

2024年10月29日
「サステナビリティレポート2024」を公開

サステナビリティ

2024年8月30日
サステナビリティサイトを更新

特集

モーダルシフトの推進と
物流における
課題解決の取り組み

特集

マテリアリティ・
KPIの見直し

特集アーカイブ

環境報告



社会性報告



ガバナンス報告



リンテックグループのCSR活動



その他の開示情報

- 会社方針一覧
- ESGデータブック
- 第三者検証
- サステナビリティレポート／その他関連情報
- 報告方針
- GRI内容索引
- 外部評価

SNSでシェアする



トップメッセージ



事業活動を通じて環境課題に取り組み、信頼されるリンテックへ

カーボンニュートラルに向けて、現場が一丸となり「前倒し」を実現

当社グループでは、「2030年までにCO₂排出量を2013年度比50%以上削減」という目標に対し、前中計「LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030 (LSV 2030) -Stage 1」で51%の削減を達成しました。特に、製造時に多くのCO₂を排出する抄紙機の乾燥工程の設備改善により大幅な排出量削減ができたことに加え、品質向上やコスト削減にもつながりました。当初の計画では、設備改善を段階的に行う予定でしたが、効果があると分かっている取り組みを前倒しすることは利益の最大化につながりますから「考えられることを隠すことなく積極的に進めてほしい」という思いを現場に伝えました。現場では課題や苦労が多かったと思いますが、私の思いを受け必死に考え、動いてくれたからこそ同時に達成できた象徴的な事例だったように思います。また、これらの効果が数字などで目に見えることで、現場を訪問して行うトップパトロールでは、従業員自らの自信にもつながったことを実感しました。この結果を踏まえ、新中計「LSV 2030-Stage 2」では「2030年までにCO₂排出量を2013年度比75%以上削減」という目標の見直しを行いました。

CO₂排出量削減目標（改定後）

2027年3月期 (Stage 2 最終年度)	67%以上削減 (2013年度比)
2030年3月期 (Stage 3 最終年度)	75%以上削減 (2013年度比)
2050年	カーボンニュートラル達成

お客様、そして地域の皆様へ果たすメーカーとしての使命

ほかにも、剥離剤・粘着剤の無溶剤化の推進やモノマテリアラベル素材をはじめとした環境配慮製品の積極的な開発や拡販に取り組んでいます。また、私たちの製品は自然豊かな地域で生産されていますので、各地域の環境に配慮することはメーカーの使命であると考えています。「LSV 2030-Stage 2」では、当社を取り巻く環境を踏まえマテリアリティの見直しを行いました。そのマテリアリティの一つである「信頼されるリンテックであり続ける」ことを常に考え、地域の皆様と良好な関係性を築き、今後も職場として選ばれるような企業でありたいと思います。

> 特集：マテリアリティ・KPIの見直し [PDF: 251KB] [📄](#)

相手を尊重し、さまざまな人財が ごく自然に会社に溶け込んでいる姿こそ多様性

企業の行動規範遵守はあるべき姿

国内外での事業展開や原材料調達するうえで、人権は尊重されなければなりません。早い段階から半導体業界では、お客様から依頼されるサプライヤー調査に人権に関する項目があり、行動規範に関するさまざまなガイドラインに準拠した企業活動がますます求められています。当社グループでも「LSV 2030」策定時に、人権の尊重を重点テーマの一つとして盛り込んでおり、2024年1月にはリンテックグループ人権方針を制定しました。今後も外部の知見や支援を得ながら、対応・改善を進めるよう指示しています。

従業員一人ひとりが最大限の力を発揮するために



私は「さまざまな人財がごく自然に会社に溶け込んでいる姿こそが多様性である」と考えています。

「LSV 2030-Stage 1」では、65歳定年制をはじめとした多くの働き方改革を行いました。この先も年齢や性別など問わず、多様な人財が活躍してくれると信じています。しかし、従業員が負荷を感じるような環境では、企業としての持続性はありませから、今後も従業員の皆さんが生き生きと働けるよう環境整備を積極的に行っていきます。多様な人財が、お客様をはじめとするステークホルダーとの関係性を絶やすことなく維持し続けることこそ企業としてとても重要に思います。

グローバル企業として 社内・社外と適切かつ丁寧なコミュニケーションを

スピード感を持ちながら真摯に向き合うこと

コーポレートガバナンスはガラス張り、透明であるべきです。M&A*によりリンテックグループの一員となった海外子会社も増えましたが、日本のやり方をそのまま強要するのではなく、相手をリスペクトしコミュニケーションをとりながら、早い段階で方針を擦り合わせるようにしています。

また、スピード感を持った透明性のある情報開示にも重きを置いています。特に株主・投資家の皆様に対しては、偏りのない情報開示を心掛けています。さらに、経営情報や取締役会での決議内容については、今後も可能な限りスピーディーに発信していくべきものと考えています。

* M&A：Mergers and Acquisitionsの略語。合併と買収。

ビジョン実現に向けたリンテックおよび自分自身のミッション

リンテックのあるべき姿を想像して進む

「LSV 2030-Stage 1」での成果を踏まえ「LSV 2030-Stage 2」を策定しました。全ての施策に優先順位をつけずに取り組むことが望ましいですが、本中計の中でもDX+が極めて重要なテーマであると考えています。前中計の2年目では、世界的なインフレ抑制のための金利上昇の影響や、電子・光學関連事業の需要が低迷するなど極めて厳しい結果となりました。しかし、どんなに厳しい事業環境にあっても「稼ぐ出す力」をつけなければサステナブルな企業にはなりません。少子高齢化、人口減少による労働力不足が懸念される中で、当社としてもDXやロボティクス技術を活用して、マンパワーに依存する仕事のやり方を変えていくなど、世の中の変化に即応していく必要があると考えています。

当社グループは創業以来、お客様からのご愛顧、サプライヤーの支援、グループ全従業員の努力によって、その時代の社会課題を解決してきました。その歩みを止めることなく「サステナブルな社会の実現に貢献していくこと」こそがリンテックのあるべき姿だと考えています。

* DX：Digital Transformationの略語。ビジネス環境の変化に対応するためにデータとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務の内容やプロセス、組織、企業文化などを変革し、競争優位性を確立すること。

社長は従業員の最強のサポーター

まず私のミッションは、新中計「LSV 2030-Stage 2」を従業員に周知し理解してもらうことだと考えています。過去の従業員満足度調査では、会社の方針が伝わってこないとの声があり、これは私の責任だと痛感しました。そのため、社内報や社内のあらゆる会議、時には現場に赴き従業員の顔を見て、一人ひとりに届くような言葉を選び、かみ砕いて説明するよう心掛けています。

また会社が持続的に成長していくために、開発に関わる部署以外でも社内の至るところから新製品・新事業創出に向けた提案が持ち上がってくる環境づくりを推進していきます。私自身、営業として多くのお客様の声や市場のニーズを活かしてきましたので、第一線にいる営業自らが手を挙げて新製品の開発に取り組むべきだと考えています。どのような立場にあろうとも、全ての従業員が手を挙げることでできる企業風土であるべきです。もちろん、新製品を生み出すだけでなく、マネジメントやビジネスモデルも同様です。それこそがリンテックの底力、イノベーションになると私は信じています。

多彩な従業員一人ひとりがイノベーションを起こすためにも、最強のサポーターとしてバックアップしていくことが私の大きな責任です。

それぞれの仕事を地球の裏側まで深掘りすれば 自ずと見えてくるものがある

日々の活動の先にイノベーションあり

私自身イノベーションは、魔法の杖でもなければ起こすことができないのではないかと考えたり、これまでやってきたことは全く別のものを創り出すことと誤っていた時期もありました。休日など業務以外の時間を使い、知識が足りない中で未知のものを生み出すことはかなり難しいとも考えていました。そのような思案をしている中で、イノベーションとは既存技術や活動の先にあるという経済学者のシュンペーターが提唱するイノベーション理論に触れ、現業を掘り下げることが新たな価値の創出につながる可能性を持っていると感じました。



一人ひとりが自らの仕事を突き詰めることでサステナブルな企業へ

徹底的に極める、そのプロセスの中で仮に方向が1ミリずれてしまったとします。しかし、そこをさらに探求したところに予期しない副産物が現れる。それがイノベーションだと私は考えます。つまり、自身の業務や活動を地球の裏側まで掘り下げていくような気持ちで徹底的に追求することがイノベーションにつながるのです。

当社グループの歴史を振り返ると、四つの基盤技術*を駆使し、それをさらに深掘りしていくことで時代の変化に対応してきたといえます。自社の基盤技術を追求していったことでイノベーションに必要なスピード感をもって製品開発をすることができたのです。そういう歴史のある会社だからこそ、現業を掘り下げていくことでサステナブルな企業になれると考えています。

* 四つの基盤技術：「粘着応用技術」「表面改質技術」「特殊紙・剥離材製造技術」「システム化技術」

グループ全従業員が一丸となるために

相手を思いやり、そして考える

リンテックが誰からも評価され信頼される会社であり続けるためには、グループ全従業員が一丸となる必要があります。そのためには、地域や文化の違いを超えて「相手をリスペクトすること」が重要だと私は考えます。例えば、グループ全体に情報発信する場合、受け取る相手に合わせ、伝え方を変えることが大切です。どのように発信をすれば十分に伝わるのが難しく、いつも本当に悩みますが、その悩むということ自体が相手へのリスペクトの一つと考えています。営業として世界中を駆け回っていた時、リスペクトの精神を持って必死に相手とコミュニケーションを図る努力をしてきました。その結果、現地の方々と良好な関係を構築できたという経験は、大きな自信となりました。相手をより理解しようとするところに信頼関係、人間関係が生まれます。そのためには、相手へのリスペクトを忘れないことが何より重要なのです。

ステークホルダーの皆様と明るい未来へ突き進む

全てのステークホルダーにとって「良きリンテック」であるために

私は、当社グループの全従業員がすべての原動力であり、会社の力を生み出すエンジンだと考えています。仕事は大変なこともあります。従業員自身が「リンテックで良かった」と思っていなければ、私たちを支えてくださるほかのステークホルダーの皆様にも「リンテックが良い」と言ってもらえません。

前中計の業績についてはさまざまな要因もあり厳しい結果となりましたが、そのような経営環境の中でも従業員一人ひとりが各施策に懸命に取り組んでくれました。「LSV 2030-Stage 2」ではこれまでの取り組みが加速し、良い数字に反映されると信じています。会社が成長するためには営業利益額を伸長させ、営業利益率とROE*をさらに向上させる必要があります。お客様に対しては必要な場面できっかりと次世代に向けた提案を行い、サプライヤーの皆様と新陳代謝を高め、リンテックを支えてくれるステークホルダーの皆様とともにサステナブルな企業でありたいと考えています。

* ROE：Return On Equityの略語。自己資本利益率。

トップメッセージを受けて

トップメッセージに込められた思いや考えは長期ビジョン「LSV 2030」の実現になくはならないものです。グループ全従業員がこの考えや方針にベクトルを合わせ、個々の力を一つに結集することにより、強力な推進力が生み出されます。

100%の推進力を発揮するためには、グループ全従業員がビジョンや目標「LSV 2030-Stage 2」の施策は「何のためにあるのか」「自分は何をするべきか」をそれぞれの立場でしっかり考え、重要課題や全社・部署の取り組みを「自分事」化して実行していかなければなりません。さらにイノベーションを起こし、それぞれの力を100%以上にするための強い味方は「社長が従業員の最強のサポーターである」ということです。ビジョンの実現を確かなものにするためトップの意志を全従業員に伝えて浸透させるとともに、全従業員に「自ら動く」という意識を持ってもらうことがサステナビリティ推進室の重要な使命です。

また、当社グループを取り巻く外部環境は近年大きく変化しており、その変化は広く、高く、深く、速くなっています。さらにマテリアリティで設定したサステナビリティ課題は未財務の課題として独立したのではなく、経営戦略と有機的に結びつき企業の持続的成長に寄与するということを示す「ストーリー」の重要性も増しています。

これらの変化や要求を的確に捉え、サステナビリティ委員会をはじめとする社内各組織への新たな提案や施策立案により活動を推進すること。そして当社グループの戦略や活動の実績を社内外に適時・適切に開示し、ステークホルダーとの対話などを通じてパフォーマンスを高めていくことが当室のもう一つの使命です。

これからも従業員の最強のサポーターであるトップの意志を伝え、全従業員が自ら考えて動く土壌をつくる。そこで実行すべき新たな考え方や取り組みを推進し、長期ビジョンを実現するという二つの使命を力強く実行していきます。

執行役員
サステナビリティ推進室長
星 優

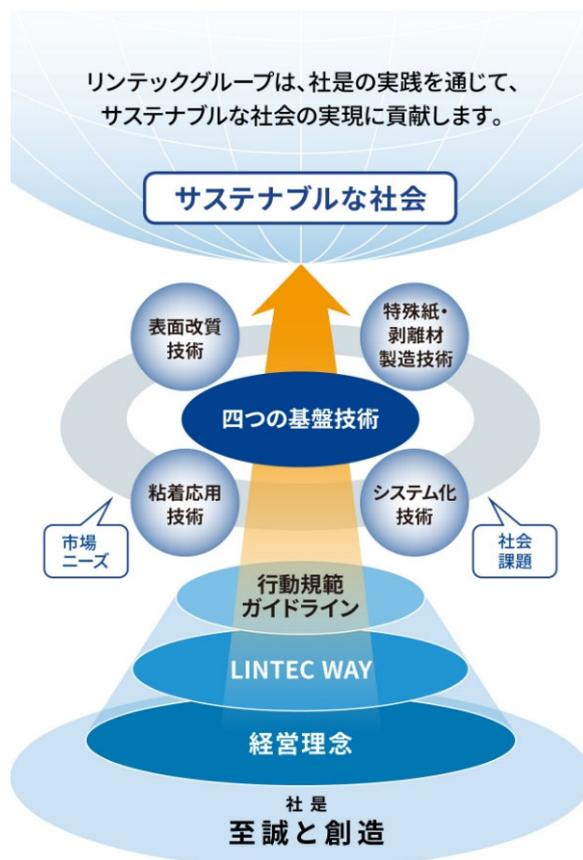


2024年8月30日

サステナビリティの考え方

リンテックグループは、社是「至誠と創造」を根幹におき、全ての役員、従業員が「リンテックグループ行動規範」を遵守して、サステナブルな社会の実現に貢献します。

また、リンテックグループは、人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、そして腐敗の防止に関わる国連グローバル・コンパクト10原則を支持し、実践しています。



> [リンテックグループ行動規範（会社方針一覧）](#) [PDF：373KB]

> [国連グローバル・コンパクト10原則](#) [PDF：279KB]

価値創造プロセス

当社グループでは、価値創造プロセスを通じて持続的な成長と社会の発展を両立させ、サステナブル社会の実現を目指しています。

> [価値創造プロセス](#)

※ [株主・投資家情報ページ](#)内に移動します。

バリューチェーンとステークホルダー

リンテックグループのバリューチェーンとステークホルダー

リンテックグループの考えるバリューチェーンとステークホルダーとの関連は下図の通りです。

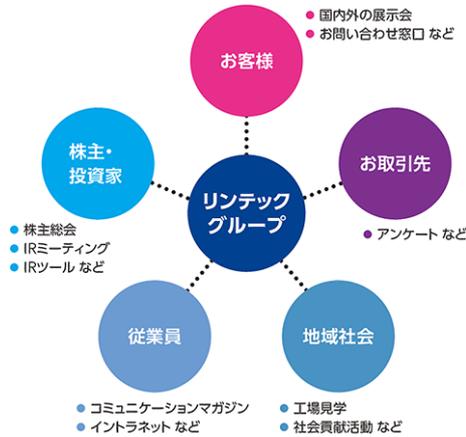
リンテックグループのバリューチェーンとステークホルダー



* モーダルシフト：旅客や貨物の幹線輸送を、大量輸送が可能な鉄道や船舶輸送に切り替えることで、CO₂排出量削減を図る取り組み。

リンテックグループのステークホルダー

リンテックグループのステークホルダーとさまざまな対話の場を設け、業務に反映しています。



> ステークホルダーコミュニケーション [PDF : 214KB]

サステナビリティ推進体制

リンテックグループでは、全従業員が社是「至誠と創造」を根幹に置き、サステナビリティ推進活動を行っています。サステナビリティ推進体制として、代表取締役が委員長を務め、社外取締役全員が参画する「サステナビリティ委員会」を設置し、その傘下にESGやSDGs、リスク管理などに関する各委員会・分科会を配しています。

> サステナビリティ推進体制 [PDF : 101KB]

サステナビリティ委員会

サステナビリティ経営推進のための基本方針策定や施策の立案、各委員会・分科会の施策の進捗レビュー、モニタリングおよび改善指示などを行っています。

2023年度は、主な議題として、CO₂排出量削減に関する施策、生物多様性への対応などに対して議論を行いました。その他にも、Stage 2に向けたマテリアリティ・KPI改訂や行動規範ガイドライン改訂、従業員サーベイの結果およびアクションプランに関する議論を行いました。2023年度はオンライン会議を併催のうえ4回開催し、社外取締役を含む委員14人で構成され、出席率は75%（委員1名）、100%（その他の委員全員）でした。

— サステナビリティ開示分科会

各種適時開示資料やPR誌、ウェブサイトなどを通じてのステークホルダーへの迅速かつ効果的な情報開示を行っています。また、サステナビリティ情報の収集や発信手法、統合報告書の誌面内容などについての検討と外部調査機関の調査への回答および経営層への評価結果のフィードバックなどにも取り組んでいます。

2023年度は、同分科会を計4回開催し、日本国内のサステナビリティ開示基準の開発を行うサステナビリティ基準委員会（SSBJ）の動向把握など開示に関わる制度改正の調査、共有などを行いました。

環境委員会

持続可能な社会を目指し“気候変動・循環経済・自然共生”の環境課題について策定した「リンテックグリーンプラン」に基づいてLSV 2030の実現に向けて活動を行っています。

気候変動においては、リンテックグループとして2030年にCO₂排出量削減50%以上（2013年度比）を達成するために進捗管理を実施しました。結果、設備投資計画の前倒しや横展開、グリーン電力などの導入により目標を達成し削減実績は51.4%でした。

循環経済について3Rの取り組みを推進しました。自然共生においては、国内工場における生物多様性への対応や生物多様性の保全に関わる社内教育（e-ラーニング）を行いました。

— TCFD分科会

TCFD提言に基づき、気候変動関連のリスクと機会の特定、これらの管理や機会獲得に向けた戦略の構築、財務インパクトの評価および情報開示を行っています。

2023年度は対象範囲を拡大し、海外グループ会社（中国、韓国、タイ、インドネシア）におけるリスク・機会および対応策の検討を行いました。

また、低炭素経済社会への移行計画の開示に向けた準備として、LCAの算出、スコープ3の削減計画についても検討を進めています。

社会・ガバナンス委員会

社会・ガバナンスに関する方針の策定や施策の立案および遂行を目的としており、ESGの社会（S）とガバナンス（G）に関する会社の取り組みの進捗をチェックしています。

2023年度は、従来から企業価値の根幹にかかわる重要な前提と考えていた人権の尊重について明文化した人権方針の策定（2024年1月1日制定）をしました。全ての役員、従業員が遵守するだけでなく取引先を含むビジネスパートナー、関係者にも本方針に則って行動していただくことをお願いしています。

その他にも、各種研修を通じた人材育成と継続的な啓発活動を行っています。また、ガバナンス向上を目的とした役員向け研修会も実施しました。

— 企業倫理分科会

企業倫理の醸成と社員一人ひとりへの浸透・定着を目的に活動しています。2023年度は以下5つのテーマについて情報発信と教育の場の提供を行いました。

1. りんりかわら版発行（イントラネットに「行動規範」に関する川柳を月次掲載）
2. りんりかわら版川柳コンクールの実施
3. 倫理意識向上ポスターの発行
4. 情報セキュリティー自己監査の実施
5. 他社事例から学ぶ企業倫理（メールマガジンの発行）：「詐欺、道路交通法違反」「横領、器物損壊、改ざん」の事例を解説付きで紹介

— 社会貢献分科会

地域社会および国際社会における良き企業市民として、社会の持続的発展に寄与する身の丈にあった社会貢献活動を推進することを目的としています。

2023年度は、6回開催し、活動内容について協議しました。当社の本社がある板橋区では「障がい者の方々をお招きする野球観戦（7月4日）」や「ふれあいコンサート（10月15日）」を実施しました。板橋区を通じて支援を必要とする世帯への食品提供、クリスマスにはフライドチキンに交換できるギフトカードの提供など、実施可能なことを考えて活動を行いました。

また、能登半島地震の被災地に対し、リンテックおよびグループ会社従業員より義援金を募り、日本赤十字社を通じて寄付しました。

— ダイバーシティ・働き方改革促進分科会

ダイバーシティ・働き方に関するニーズの吸い上げ、施策や制度の浸透と啓蒙活動を行っています。

2023年度は6回開催し、従業員サーベイ、テレワーク勤務、ワークライフバランスの向上、ダイバーシティの促進、人材育成に関する取り組みの進捗確認や見直しを含めた意見交換を行いました。

SDGs委員会

本業を通じてさまざまな社会課題の解決に貢献していくことを目的に、全社横断的にメンバーを募り、SDGsの理解を深めるとともにビジネスアイデアを創出する活動を行っています。

2023年度は、新規メンバーにて新たなスタートを切りました。外部講師によるSDGsやビジネスモデル構築に関する講義や新規事業、新製品の立ち上げに携わる社員からの経験談を聴く機会を設けました。その後、社会課題の深掘りと解決策について議論を深め、ビジネスアイデアの創出に向けた取り組みを行っています。

> SDGsへの取り組み [PDF：650KB] 

全社リスク管理委員会

全社的な事業におけるリスクと機会の把握、対応方針策定、職制への落とし込みおよび検証を行っています。

2023年度は6回開催し、地政学をテーマとして採り上げ、洗い出しを行い、共有しました。また、今後起こりうるリスクの影響度評価、特定および対応方法について議論しました。引き続き当社グループの事業へ影響する変化を確実に捉え、リスク管理体制を強化していきます。

サステナビリティ推進に取り組むネットワーク

リンテックグループ全従業員が、サステナブルな社会の実現に貢献しています。



(海外：2023年12月31日現在 国内：2024年3月31日現在)

— 拠点一覧

- > リンテック国内事業所
- > 国内グループ会社
- > グローバルネットワーク

※ 会社情報ページ内に移動します。

サステナビリティ

マテリアリティ（重要課題）とKPI

リンテックグループがサステナブルな社会の実現に貢献するために優先的に取り組む課題を「マテリアリティ」として特定し、その評価指標（KPI）*も定めて進捗を確認しています。

* 評価指標（KPI）：Key Performance Indicator。目的に対する達成具合を定量的に計るために設定された組織の戦略に関わる重要な指標。

> 長期ビジョン「LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030」（略称：LSV 2030）

※ 株主・投資家情報ページ内に移動します。

「LSV 2030-Stage 1」

「LSV 2030-Stage 1」では以下マテリアリティ・KPIを設定し、取り組みを行いました。

事業全体	事業面での貢献
環境	持続可能な地球環境への貢献
社会	人権の尊重 バリューチェーンマネジメントの向上 ステークホルダーとのコミュニケーション強化
ガバナンス	グループ全体のガバナンスの推進

> 「LSV 2030-Stage 1」マテリアリティ・KPI詳細 [PDF：285KB]

「LSV 2030-Stage 2」

新中期経営計画経営「LSV 2030-Stage 2」策定に合わせ、マテリアリティ・KPIの見直しを行いました。今回のマテリアリティ見直しにあたっては、ダブルマテリアリティ*の考え方をを用いて最終化を行っています。

また、脱炭素社会の実現に向けたCO₂排出量削減においては、その取り組みを精力的に加速させたことで、2030年までに2013年度比で50%以上削減する目標を前倒しで達成することができました。このことから「Stage 2」では67%以上、「Stage 3」では75%以上へと目標を変更しました。

* ダブルマテリアリティ：自社が社会・環境に与える影響およびサステナビリティ課題が財務に与える影響の二つの観点から評価したサステナビリティに関する重要課題。

事業活動を通じて社会的課題の解決を図る

- 脱炭素社会の実現への貢献
- あらゆるステークホルダーに対する人権の尊重
- ガバナンスとリスク管理の強化

イノベーションによる企業体質の強靱化と持続的成長の推進

- 市場をリードする革新的な新製品・新事業の創出
- 開発・製造・物流・業務プロセスなどの改革による収益性の向上
- 知的財産の保護と活用

環境・社会・お客様への責任を果たす

- 自然生態系への影響の低減
- 環境配慮製品のさらなる創出
- 安全で高品質な製品の提供と安定供給

未来のための人材を守り、育てる

- 従業員の人権尊重と権利の向上
- 人的資本の向上と誠実かつ風通しの良い組織づくり
- 従業員の労働安全衛生の推進

信頼されるリンテックであり続ける

- 透明性のある情報開示とステークホルダーとのコミュニケーションの強化
- コンプライアンスと公正なビジネスの徹底
- 責任ある調達とサプライチェーンの強靱化
- 情報セキュリティの強化

> 「LSV 2030-Stage 2」マテリアリティ・KPI詳細 [PDF: 285KB] 

> SDGsへの取り組み [PDF: 650KB] 

サステナビリティ 環境報告



リンテックグループでは、企業活動と地球環境の調和を目指し「地球は一つ、大きな視野で快適環境に尽力しよう」をスローガンに、さまざまな取り組みを推進しています。

> 環境マネジメント

- 環境マネジメントシステム
- 内部監査
- 環境教育
- 環境コンプライアンス
- マテリアルフロー

> 環境配慮製品の開発

- 環境配慮製品のガイドライン策定と運用

> 気候変動の緩和と適応

- CO₂排出量削減に向けた取り組み
- TCFD提言への対応

> 循環型社会の実現

- 廃棄物の削減
- サーキュラーエコノミー
- 持続可能な原材料調達

> 自然共生

- 用水の使用と排水
- 生物多様性保全のための取り組み

> 環境負荷化学物質の管理

- PRTR法への対応
- VOC排出量の削減
- 化学物質管理、EUにおける各種規制への対応
- PCBの適正管理

> 環境保全コスト

関連するSDGs



環境報告

環境マネジメント

リンテックグループでは、環境マネジメントシステムを構築・運用し、リスクと機会を踏まえて継続的改善を図り、多角的な取り組みを推進しています。

環境マネジメントシステム

リンテックグループは「品質・環境・事業継続方針」に基づき、地球環境保全に積極的に取り組んでおり、ISO14001認証取得や第三者検証を受けています。

> 環境マネジメントシステム関連データ [PDF: 1,149KB] [📄](#)

内部監査

リンテックグループでは、環境マネジメントシステムを事業活動へ浸透させるため、内部監査や相互監査を実施し、法令遵守やシステム運用に関し、PDCAのスパイラルアップを促進しています。外部・内部審査の指摘事項は、内容の詳細（発生状況・背景・指摘事項の本質）を確認し、水平展開することで、活動のレベルアップを進めています。

> 内部監査関連データ [PDF: 1,149KB] [📄](#)

環境教育

環境マネジメントシステムの認識教育をはじめ、各種教育を実施しています。また環境教育の一環として、イントラネットの「リンテック環境・安全インフォメーション」にて、ISO14001、化学物質管理関連、省エネルギー、安全衛生などの環境関連ニュースを発信しています。

> 環境教育関連データ [PDF: 1,149KB] [📄](#)

環境コンプライアンス

各拠点では、環境関連法規制等順守評価を半期ごと（2回/年）実施、その結果を全社EMS事務局で精査しています。順守評価、内部監査、相互監査、外部（継続・維持）審査およびマネジメントレビューからの結果をもとに、予防的なツールとして改善の機会や是正処置対応をし、環境パフォーマンスの向上に努めています。

> 環境コンプライアンス関連データ [PDF: 1,149KB] [📄](#)

マテリアルフロー

リンテックと国内グループ会社を対象にエネルギー、資源投入量、製品生産量、さらには大気・水域などへの環境負荷などのデータを集計し、活動量の把握に努めています。

> マテリアルフロー関連データ [PDF: 1,149KB] [📄](#)

環境報告

環境配慮製品の開発

リンテックグループは、ものづくりを担う企業の責任として、環境負荷低減を指向した製品の開発に力を注いでいます。また、設計段階からLCA*を参考に資源採取・原材料調達から製造過程、廃棄までを含めた環境負荷低減に努めています。

* LCA：Life Cycle Assessmentの略称。製品のライフサイクル全体を通じて投入されるエネルギーや水、原材料の量や排出されるCO₂、有害化学物質などを算出し、環境への影響を総合的に評価する手法。

環境配慮製品のガイドライン策定と運用

リンテックでは、ISO14021*に準拠した「自己宣言型環境配慮製品」のガイドラインを作成し、運用しています。今後も環境配慮製品の開発に努めていきます。

* ISO14021：「環境ラベルおよび宣言—自己宣言による環境主張（タイプII環境ラベリング）」のための国際標準規格。企業自らが基準を設け、これを満たすことでラベルを付与することができる。

> [環境配慮製品のガイドライン策定と運用関連データ](#) [PDF：1,149KB] 

気候変動の緩和と適応

リンテックグループでは、事業活動を継続するうえで大きなリスクとなる気候変動などに適応するとともに機会の獲得のため、さまざまな環境活動に力を注いでいます。

CO₂排出量削減に向けた取り組み

リンテックグループでは、2050年カーボンニュートラルを目指し、CO₂排出量削減に取り組んでいます。



※スコープ1、2に対する目標
削減割合:2013年度比

> CO₂排出量削減に向けた取り組み関連データ [PDF: 1,296KB]

エネルギー総使用量とCO₂排出量

さらなる低炭素排出の電力使用などにも取り組み、CO₂排出量削減に貢献します。

各種取り組み

気候変動への対応としてさまざまな取り組みを行っています。

TCFD提言への対応

リンテックグループでは、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の提言に沿って積極的に情報開示を行い、ステークホルダーの皆様とのエンゲージメントを通じて、さらなる企業価値向上に努めていきます。

> TCFDに基づく情報開示 [PDF: 1,296KB]

循環型社会の実現

リンテックグループでは、持続可能な社会と経済と環境を実現するため、設計から生産における廃棄物発生量の削減に取り組んでいます。

廃棄物の削減

従来の3R（リデュース（ごみの減量）・リユース（再利用）・リサイクル（再資源化））の活動の継続による廃棄物発生量の削減に加え、国内ではゼロエミッション*を目指して、処理業者の処理方法（マテリアルリサイクル・サーマルリサイクル・埋立）を把握し、有効利用できる業者の探索、再資源化できる原材料への転換、分別の細分類化などを行い、埋立処分ゼロを目指して取り組んでいます。また、2022年4月より施行されたプラスチック資源循環促進法に則り、教育訓練および管理体制の整備を行い「排出抑制及び再資源化等の目標」を設定し、リンテックおよび国内グループ会社のデータを集計、開示しています。

* ゼロエミッション：リンテックでは、最終埋立比率（最終埋立量／廃棄物発生量×100で求められる数値）が1%以下であることが基準。

> 廃棄物の削減関連データ [PDF: 1,149KB] [📄](#)

サーキュラーエコノミー

製品や生産から廃棄物や汚染を出さない製品設計を行い、リサイクル資源を有効活用して新たな資源利用を抑え、製品の生産から利用、リサイクルに至るまで資源が循環するサーキュラーエコノミーへの移行を推進します。

海洋プラスチックごみの削減に向けてはCLOMA*にも加盟し、一企業市民として環境配慮製品の提案と啓発にも取り組んでいます。また、海洋プラスチックごみ問題に加え、気候変動問題、諸外国の廃棄物輸入規制強化などに対応したプラスチック新法（プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律）が施行されたことを踏まえ、プラスチックの「設計・製造」段階での使用量削減、排出量削減、再資源化への取り組みを進めていきます。

* CLOMA：Clean Ocean Material Allianceの略称。海洋プラスチックごみの削減に向けてプラスチック製品の持続可能な使用や代替素材の開発・導入を推進し、官民連携でイノベーションを加速化するためのプラットフォーム。経済産業省が主導。

> 剥離紙の有効活用・リサイクル促進に向けラベル循環協会に参画

※ トピックスページ内に移動します。

持続可能な原材料調達

リンテックでは、原材料調達基本方針に基づいて持続可能な原材料調達を進めています。お取引先にはアンケートを通して安定供給の確認を行っています。また、原材料について生産に関する情報を調査し、整理しています。インシデント発生時には、調査結果を使用して影響が懸念される原材料を速やかに特定し、原材料の調達が途切れないように努めています。

> CSR調達（社会性報告）

自然共生

リンテックグループでは、水保全や生物多様性保全など自然共生（自然への環境負荷低減）の活動を行っています。

用水の使用と排水

リンテックでの用水使用量は製紙部門がある熊谷工場と三島工場が多くの割合を占めています。設定された目標達成に向け、各工程における用水使用量と排水量の削減および漏水対策に継続して取り組んでいます。

抄紙機を有する工場では水質汚濁防止法に加え、愛媛県赤之井川流域の三島工場は瀬戸内海環境保全特別措置法（瀬戸内法）に対応し、また埼玉県荒川流域の熊谷工場は埼玉県生活環境保全条例などに対応し、それぞれの地域の排水基準を満たしています。

> [用水の使用と排水関連データ \[PDF: 1,149KB\]](#)

生物多様性保全のための取り組み

リンテックグループでは、リンテックグループ品質・環境・事業継続方針に「生物多様性の保全」を掲げ、国内外において生物多様性の保全活動に取り組んでいます。

> [生物多様性保全のための取り組み事例 \[PDF: 1,149KB\]](#)

環境報告

環境負荷化学物質の管理

リンテックグループでは、国内外における環境法令や各種規制などを遵守し、環境負荷化学物質の管理に努めています。

PRTR法への対応

リンテックでは、PRTR法*対象物質の排出量のモニタリングを実施、特に取扱量の多いトルエンについて削減に努めています。有機溶剤の大気排出を減らすための処理機を設置しており、定期的に点検・掃除および排出濃度測定を実施し、性能維持に努めています。新たな処理設備設置に当たっては、従来処理できていなかった低濃度溶剤ガスの濃縮装置を取り入れ、処理効率の高い設備を導入していきます。

* PRTR法：Pollutant Release and Transfer Register（化学物質の排出・移動量）の届出制度を法制化したもの（特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律）の略称。化学物質の排出量・移動量に関するデータを把握・集計し、国に報告して公表される仕組み。

> PRTR法への対応関連データ [PDF：1,149KB] 

VOC排出量の削減

リンテックグループでは、企業による大気汚染防止の観点からVOC*排出量削減の重要性を認識し、対策の立案と実行を推進しています。

剥離紙に用いる剥離剤とシール・ラベル用粘着製品に用いる粘着剤の無溶剤化を進めており、無溶剤剥離紙用加工設備の導入を図り、溶剤を使用しない製品の生産拡大に努めます。また、粘着加工においても水系粘着剤やホットメルト粘着剤の採用を進めています。引き続き、確実な処理設備管理、無溶剤化率の数値管理、無溶剤化製品の開発・拡販などを実施し、さらなる環境負荷低減に努めていきます。

* VOC：Volatile Organic Compoundsの略称。大気中で気体状となる有機化合物の総称。

> VOC排出量の削減関連データ [PDF：1,149KB] 

化学物質管理、EUにおける各種環境規則への対応

リンテックでは、環境負荷物質調査対象物質を定め、購入原材料について調査を実施、化学物質の適切な管理・把握により、関連法規の遵守およびお客様への情報伝達に努めています。また、REACH規則*において、情報伝達のあるSVHC（高懸念物質）認可対象候補物質は今後さらに追加されますので、迅速に規制物質情報を得て環境負荷物質への対応を行います。また、環境に配慮した製品対応に努めながら、製品含有化学物質の管理を強化していきます。

* REACH規則：EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国への化学物質を年間1t以上輸出する場合に登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。

> 化学物質管理、EUにおける各種環境規則への対応関連データ [PDF：1,149KB] 

化学物質漏えい事故などを想定した訓練

リンテックグループの化学物質を取り扱う工場、研究所では、化学物質の漏えい事故が発生したときに敷地外に流出することを防ぎ、土壌汚染や火災などを発生させないよう、従業員が安全に処置するための訓練を実施しています。

PCBの適正管理

PCB*廃棄物を保管・管理していましたが、2019年6月をもって全て処理が完了しました。

* PCB：ポリ塩化ビフェニルの略称。PCBを含む廃棄物については、PCB特別措置法（ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法）により、その適正な保管・管理・処理が義務づけられている。

> PCBの適正管理関連データ [PDF：1,149KB] 

環境報告

環境保全コスト

リンテックでは、環境保全コストおよび効果の把握に努め、環境保全活動を効果的に推進しています。

> [環境保全コスト関連データ \[PDF : 1,149KB\]](#) 

サステナビリティ 社会性報告



リンテックグループは、お客様やお取引先、従業員、株主・投資家、地域社会など、多くのステークホルダーの皆様を支えられています。ここでは、社会と企業の持続的発展を目指した活動を報告します。

> お客様のために

- CS（お客様満足）向上のために
- 品質保証

> お取引先との協働

- CSR調達
- BCPにおけるお取引先との協働

> 従業員とともに（人権・雇用）

- 人権と多様性（ダイバーシティ）の尊重
- ワークライフバランス

> 従業員とともに（人材育成）

- 人材育成

> 従業員とともに（安全防災）

- 労働安全
- 防災対策

> 地域社会とともに

- リンテックグループのCSR活動

関連するSDGs



社会性報告

お客様のために

リンテックグループでは、お客様の期待に応えるため“「ものづくり」の原点に立ち、「お客様の満足度向上」「品質重視」を基本とした製品開発・製造・販売に努め、あらゆるステークホルダーから信頼される事業活動により、社会に貢献します。”という品質方針を掲げ、製品やサービスの付加価値向上に努めています。

CS（お客様満足）向上のために

> CS（お客様満足）向上のために関連データ [PDF：1,274KB] 

ワンストップ開発の推進

リンテックの研究開発本部では「ワンストップ開発」を推進しています。ワンストップ開発とは研究開発の初期段階から、量産プロセスの確立を視野に入れて製品設計を進めていく業務進行の考え方です。研究所の先端技術棟には工場の量産設備に近い、大型のテスト用粘着塗工設備やシリコン塗工設備を導入しています。これらを活用した試作を実施することで、処方設計とプロセス設計を同時に進めることが可能となり、新製品開発・市場投入のスピードアップにつながります。

製品の情報開示

リンテックグループでは、製品を安全・安心してご使用いただくため製品情報をお客様へお知らせしています。リンテックのホームページなどで製品の特徴、注目製品、ラインアップなどを紹介しています。

品質保証

リンテックグループは、社是「至誠と創造」の精神を根幹に置き、従業員一人ひとりが「お客様の満足度向上」「品質重視」を考え、「ものづくり」に取り組んでいます。また、現状に満足することなくチャレンジ精神を持って、さらなる「安心」と「信頼」を届けるよう努めています。

> 品質保証関連データ [PDF：1,274KB] 

品質保証体制

リンテックグループでは、ISO9001*に基づく品質保証体制を構築しています。国内グループは6事業部門を品質マネジメントシステム（QMS）統合しています。リンテックでは、2022年度から品質保証本部体制となり、品質保証と品質管理の強化、QMSの有効的運用を図り、さらなる品質向上に継続して取り組んでいます。事業活動と品質保証の連携強化およびQMS活動の融合を図り「ものづくり」の原点に立った、顧客視点の品質保証体制構築を目指します。

* ISO9001：品質マネジメントシステム（QMS）の国際規格。

品質事故の予防と教育

リンテックグループでは、製品やサービスの品質を維持・向上させ品質事故を未然に防ぐために品質マネジメントシステム（QMS）を事業プロセスと融合させ、効果的に運用することが必要と考えています。

そのために、QMS要求事項の理解を目的とした基礎編講習、内部監査員養成講習の教育を実施しています。また、品質管理体制の強化にも注力しています。製造プロセスにおける品質管理の考え方への理解を深め、不具合現象の検知能力および解析能力を向上させる目的で、統計的問題解決手法をツールとした品質管理講座を開催しました。

さらに、現場に寄り添った新たな講習も計画していきます。

安全衛生インパクトの評価

リンテックグループの提供する素材の中には有害な化学物質が含まれるものもあり、素材を使用するお客様に影響することがないように、RoHS指令*および労働安全衛生法等の基準にしたがって原材料を選択し、製品の製造工程で混入がないように注意を払っています。

* RoHS指令：EUでの電子・電気機器における特定有害物質の使用制限に関する指令。

社会性報告

お取引先との協働

リンテックグループでは、全てのお取引先を「相互発展を目指すパートナー」と考えて、信頼関係の構築に努めています。お取引先の選定に当たっては、自由な競争原理に基づき適正に評価し、公正・透明な取引を行い関連法規・社会規範を厳守した調達活動を行っています。

CSR調達

リンテックでは、CSRの精神に基づいて「リンテック原材料調達基本方針」「リンテックグリーン調達方針」「リンテック木材パルプ調達方針」を定め、これらの方針に沿った調達活動を実施しています。

お取引先には、さまざまな機会を通じて、人権尊重、労働・安全衛生、情報セキュリティ、企業倫理など、多面的な観点からCSRの徹底をお願いしています。

また、お取引先のCSRの取り組み状況（法令遵守、児童労働の禁止、安全・健康など）をお取引先アンケートの中で確認し、必要な場合には改善を求めています。

> CSR調達関連データ [PDF: 1,274KB] 

サプライヤーの評価と改善

リンテックでは、サプライヤーとの信頼関係がより確かなものになるよう、お取引先アンケートの記入をお願いしています。

グリーン調達

リンテックグループでは、環境負荷低減を目指して、原材料、部品、副資材の化学物質管理を徹底しています。新たな材料を調達する際はもちろん、継続的に調達している材料についても新たな規制への対応として製品含有化学物質を調査しています。

責任ある鉱物調達

リンテックでは、武装勢力の資金源や人権侵害・労働問題などにつながる、紛争地域や高リスク地域（CAHRAs*1）で採掘される鉱物*2について、重大な社会問題であると認識し、使用する原材料については、経済協力開発機構（OECD）の「紛争地域および高リスク地域からの鉱物の責任あるサプライチェーンのためのデュー・ディリジェンス・ガイダンス」（OECDガイダンス）を参考にこれらに関する鉱山から採掘された鉱物が含まれていないか、CMRT（Conflict Minerals Reporting Template）やEMRT（Extended Minerals Reporting Template）などを利用して厳格な調査を実施し、責任のある鉱物調達を行っていきます。

*1 CAHRAs：Conflict-Affected and High-Risk Areas

*2 鉱物：米国金融規制改革法において規定された紛争鉱物に由来する金属は、3TG（タンタル、錫、タングステン、金）。当社ではそれらに加え、コバルト、マイカも対象としている。

児童労働・強制労働

リンテックグループでは、児童労働および強制労働を重要な課題と捉えています。リンテックでは、定期的にお取引先アンケートの形式で状況把握をしています。

BCPにおけるお取引先との協働

リンテックでは、製品の安定供給に必要な原材料の供給元であるお取引先に対して、その事業継続能力の評価を進めています。主要なお取引先を対象に①当社向けの在庫保有量、②お取引先における原材料購入ルート、③生産拠点および設備の防災対応、④代替生産拠点の調査を実施しています。

また、BCPを導入し組織的に運用する体制の整備や、インシデント*発生時に対応する組織や手順の整備についても、対応の協力要請を行っています。

* インシデント：中断や阻害、損失、緊急事態・危機になり得る、またはそれらを引き起こし得る状況。

社会性報告

従業員とともに（人権・雇用）

リンテックグループでは、全ての従業員が社是「至誠と創造」の下、共に働いています。全従業員が平等に働きがいを持てるよう、人種、信条、性別、国籍、宗教、年齢、出身、身体的障がい、先住民、移民、性的指向、性自認などによるあらゆる差別的取り扱いをせず、従業員一人ひとりの多様性（ダイバーシティ*）を尊重しています。今後も、ダイバーシティを促進し、全従業員が互いを認め合いながら成長し続けることを目指していきます。

* ダイバーシティ：立場や価値観などの異なる人同士が集団の中に存在すること。人や集団間に存在する多様な個性を尊重することで、適材適所での各能力の発揮や多様な視点での問題解決、独創的なアイデアの創出などを促進する。

人権と多様性（ダイバーシティ）の尊重

> 人権と多様性（ダイバーシティ）の尊重関連データ [PDF：1,274KB]

女性従業員の活躍推進

リンテックでは女性活躍推進法 第2期行動計画に基づき、女性従業員の活躍推進に取り組み、2022年4月から2026年3月31までの新たな目標として、女性活躍推進法第3期行動計画を策定し、多様性の確保および拡大を今後も行っていきます。

次世代育成支援対策推進

リンテックでは次世代育成支援対策推進法第4期に基づき、仕事と育児・介護などの両立支援制度の継続的な検証および周知を行いました。2022年4月から2026年3月31日までの新たな目標として、次世代育成支援対策推進法第5期行動計画を策定し、多様性の確保および拡大を今後も継続します。

人権尊重の労務管理と教育

リンテックグループでは、企業活動の根幹に「コンプライアンス」があると考えており、国内外の企業活動において「関連法規」ならびに「社会ルール」の遵守を徹底しています。これは従業員の採用や就労に関しても同様であり、不当な差別行為、児童労働、ハラスメントの禁止など、労働関連法規を遵守した労務管理を行っています。

リンテックでは、階層別研修プログラムに人権教育を取り入れています。新入社員に対して「国連グローバル・コンパクトとCSR」に関する研修や、新任監督職・新任管理職研修においてもセクシャルハラスメント・パワーハラスメント研修を実施しています。

障がい者雇用

リンテックは障がい者の雇用に努めています。

ジョブリターン制度・キャリアリターン制度

リンテックで導入している「ジョブリターン制度」は、出産や家族の介護、配偶者の転勤など、さまざまな家庭の事情により自己都合で退職した従業員を即戦力として再雇用する制度です。また、多様な働き方の新たな取り組みとして、転職・留学などの当社外でのキャリア形成を理由に自己都合で退職し、キャリアアップした元従業員を会社が即戦力として再雇用する「キャリアリターン制度」を2022年10月に導入しました。

高齢者雇用

「高齢者雇用安定法」が改正されたことに伴い、65歳から70歳まで再雇用を可能にするよう定年再雇用規程を改定しました。加えて、2023年度に65歳定年制も導入しました。長年培ってきた知識や技術を次世代につなげながら、さまざまな場で活躍しています。

社会貢献休業制度

2022年度に社会貢献（ボランティア）休業制度を導入しました。会社が認めた期間（最長1年間）にわたる災害復旧・海外支援への協力など、社会貢献を目的とする活動に参加するための休業制度です。

労使関係

リンテックでは、ユニオンショップ制（管理職以外の労働者が労働組合に全員加入する制度）の労働組合として「リンテックフォーレスト」が組織されています。会社とリンテックフォーレストが互いの立場を尊重しつつ新しい制度やさまざまな問題に対して協議し、協定を締結しています。また、安全にも労使一体で取り組んでおり、労災ゼロを目指して活発な活動を行っています。

> 人権と多様性（ダイバーシティ）の尊重関連データ [PDF: 1,274KB]

ワークライフバランス

安心して仕事に取り組み、その能力を十分に発揮するには「ワークライフバランス」の実現が不可欠です。リンテックでは、多様な人材が生き生きと働ける職場環境づくりやキャリア形成に向けて、就業規則の改定や職場環境の改善など、多面的な取り組みを検討・実施しています。

> ワークライフバランス関連データ [PDF: 1,274KB]

リタイアメントプランニング研修・ライフプラン研修

リンテックでは、世代別に「リタイアメントプランニング研修」や「ライフプラン研修」を定期的を実施しています。これらの研修は、ライフイベントにおける支出など、今後充実した生活を送るために必要な資産形成について学び、健全な資産形成および仕事に専念できる環境の構築を目的としています。社会情勢の変化や個人の価値観が多様化する中において、ライフプランの重要性を周知するよう、今後も情報提供に努めていきます。

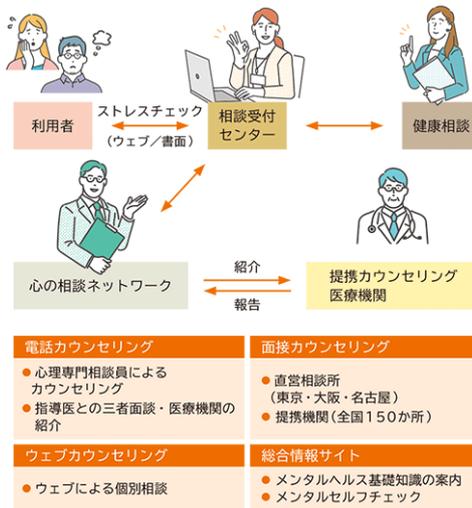
長時間労働対策

リンテックでは社員の体や心に過度の負担をかける深夜残業・長時間労働を防ぐため、人員の適正配置や業務量の平準化、上司による残業時間管理を行っています。そのための仕組みとして、職場ごとのノー残業デー、フレックス勤務制度、裁量労働制に加え、2019年度より勤務間インターバル制度、在宅勤務制度を導入しました。労働時間の把握については管理職、裁量労働者なども含んだ全従業員を対象としています。細かな労務管理ができるように、勤怠管理システムを導入し、日々の時間外勤務の申請をフォローしています。また「心の健康診断」を年1回受診することで、各自がストレスの状況を把握し、メンタルヘルスの自己管理に役立てています。

メンタルヘルス対策

リンテックグループでは、予防型EAP*システムを導入しています。年1回の「心の健康診断」により、各自がストレスの状況を把握し自己管理に役立てるとともに、組織ごとの分析結果は経営層に報告され改善を図ります。また、リンテックグループの社員とその家族のために、健康、メンタルヘルス、育児、介護、法律、家計などの悩みを専門家に相談できる、サポートホットラインを設置しています。さらに、外部委託している当社グループの専用ライン「職場環境改善のためのハラスメント相談窓口」を設け、ハラスメントなどについて臨床心理士に電話相談できる体制を整えています。

— 予防型EAPシステムの概要



* 予防型EAP：Employee Assistance Program（従業員支援プログラム）の略称。既に不調を訴えている従業員への「対処」に加え、健康な従業員に対する「予防」にも重点を置き、従業員が働きやすい職場をつくることで生産性を上げようとする従業員プログラム。

集団予防接種

リンテックでは、自社の自発的な健康プログラムとして、インフルエンザの予防接種を推奨しています。産業医と連携して会社で就業時間に接種できる機会を提供するなど、従業員が安心して働けるよう会社を挙げて予防接種を受けやすい環境を整備しています。また、2021年から健康保険組合による社員および被扶養者のインフルエンザ予防接種費用の補助に加え、会社からも追加して費用補助を行っています。

乳がん検診対象者の拡大

リンテックでは、社員および家族が、より健康で充実した生活を過ごすためのサポートの一環として、健康保険組合による各種健康診断を実施しています。35歳以上の女性社員および被扶養者は、希望により乳がん検診を受診することが可能です。

* 厚生労働省「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針（令和3年10月1日一部改正）」では、40歳以上の女性が対象。

禁煙対策

リンテックでは、社員および家族の健康促進や仕事の効率アップを図ることを目的に、健康増進法の趣旨に基づき「健康促進手当」を導入しています。支給対象となる社員の条件は「全く喫煙をしない」または「禁煙を始めて60日以上経過」とし、手当を支給しています。

> ワークライフバランス関連データ [PDF：1,274KB]

社会性報告

従業員とともに（人材育成）

リンテックグループでは、従業員の業務や能力に合わせた教育プログラムを用意し、人材の育成に努めています。またリンテックでは、幅広い知識・センスに加えて、専門性を持った「山型人材」育成のための人材育成プログラムを導入しています。スキルアップはもとより、各人の意欲を最大限に引き出し、自発的なキャリアデザイン*を支援するもので、社員の声を基に“自立開発型”研修体系として進化を続けています。最新の研修は、階層別とテーマ別の2つに分けて実施しています。

* キャリアデザイン：自分の経験やスキル、ありたい将来像について考慮しながら、自らの持つ能力を生かすために計画すること。

人材育成

> 人材育成関連データ [PDF: 1,274KB] [📄](#)

全社階層別研修とキャリアデザイン

リンテックでは“会社と社会の発展に貢献できる人づくり”を目指しています。入社時に実施する新入社員研修に始まり、社員のキャリアアップの過程に合わせて、多様な価値観を持つ社員一人ひとりが成長を実感できる人材教育プログラムとして、全社階層別研修を導入しています（若手営業職、新任監督職、新任管理職など）。この研修プログラムを通じて、社員の能力向上はもとより、各人のキャリアデザイン*を支援しています。

従業員の育成については、年2回、業務実績または取り組みに対するフィードバック面談を上司が実施し、モチベーションの維持・向上につなげています。

また、入社4年目・7年目・監督職の社員を対象とした人事部によるキャリア面談を実施し、キャリア形成の課題を会社と一緒に考える機会を設けています。

* キャリアデザイン：自分の経験やスキル、ありたい将来像について考慮しながら、自らの持つ能力を生かすために計画すること。

CSR勉強会

リンテックグループでは「行動規範ガイドライン」を策定し、小冊子にして全従業員に配付しています。それを用いたCSR勉強会を開催しており、一人ひとりの意識啓発に努めています。

グローバル教育

グローバルで利用できる生産や販売を支える基幹システム「LSP（Lintec Standard Package）」を情報システム部で内製し、国内外へ導入しています。このシステムを効率的かつ安定的に運用してもらうため、導入拠点のITスタッフへの研修を行ってきました。今後は、DX（デジタルトランスフォーメーション）・企画・設計・開発などを含めたグローバル教育も行い、リンテックグループ全体でさらなるレベルアップを目指していきます。

情報セキュリティー教育

リンテックでは「情報セキュリティー管理規程」を策定するとともに、毎年「情報セキュリティー運用細則兼内部監査チェックリスト」に基づき各部署で自己チェックを実施しています。

e-ラーニングによる情報セキュリティー自己監査を実施し、情報管理に関する従業員の理解促進と意識向上に努めています。

昨今、ウェブ会議、社内チャットなど情報系のツール活用が多くなり、それに伴いセキュリティー教育も更新しています。

社内での情報管理ルールの徹底を図るだけでなく、個人でネットワークを使用する際の注意事項なども含めた総合的な教育を行っています。

技術に親しむ会

リンテックグループは、グループ内の技術交流を目的に「技術に親しむ会」を開催しています。

自己啓発通信研修

リンテックでは希望する社員に対し、外部の通信研修を年2回実施しています。この通信研修は自己啓発を目的とし、期間内の受講修了者には会社が費用の一部を補助する仕組みになっています。通信研修の内容は経営、ビジネススキル、DX、外国語、教養、各種資格取得などさまざまです。

語学研修

リンテックでは、グローバルに活躍できる社員を育成するために、自発的学習のサポート制度として語学研修制度を導入しています。受講者は受講希望者（自薦）のほか、所属推薦者を加え選定会議により決定します。研修時間は個人の語学レベルにより異なりますが、約100～150時間をかけて目標レベルへの到達を目指します。

> [人材育成関連データ \[PDF : 1,274KB\]](#) 

従業員とともに（安全防災）

リンテックグループでは、リンテック労働安全衛生方針を制定し、継続運用しており、方針にしたがって年間の安全衛生計画を策定しています。安全衛生計画では、重点実施項目ごとに目標や具体的な活動内容を設定しており、計画に沿った活動を実施しています。活動結果は、内部監査やマネジメントレビューで評価し、次年度の活動に役立てています。

労働安全

> 労働安全関連データ [PDF: 1,274KB]

労働安全衛生方針

リンテックグループは2018年、「リンテック労働安全衛生方針」を制定するとともに本社や営業を除く国内事業所を対象とした「リンテック安全衛生マニュアル」を整備しました。労働安全衛生マネジメントシステムを構築し、毎月安全衛生委員会・衛生委員会を開催しています。また、リンテックの安全衛生活動をわかりやすく体系化した「安全衛生文化の創出に向けて」を作成しており、リンテック安全四原則をベースに、安全衛生活動の四本柱を推進し、リンテックの安全衛生文化を目指します。

年間安全衛生計画

リンテックグループでは、年度ごとに安全衛生活動の年間計画を策定しています。この安全衛生計画には経営層の方針が示され、方針を達成するため、安全パトロールやリスクアセスメント*、安全教育などの重点実施項目を設定しています。重点実施項目については、さらに具体的な活動内容や目標を設定し、安全衛生活動に反映しています。活動結果と進捗状況については、毎月の安全衛生委員会で報告し、委員会のメンバー全員で改善について検討します。このようにPDCAを回しながら次の取り組みにつなげることで、安全衛生活動の継続的なレベルアップを図っています。

* リスクアセスメント：リスクを評価し、安全基準を設定するもの。

年間安全衛生計画に含まれる項目

- 安全衛生委員会の開催
- パトロール計画
- リスクアセスメント安全教育
- 訓練計画
- 点検計画
- 作業環境測定
- 健康診断*
- メンタルヘルス
- 内部監査
- マネジメントレビューなど

* リンテックが所属している東京文具工業健康保険組合と協力して定期健診を実施し、結果の分析を行っています。各事業所にて、必要な人には再検診や保険指導をしています。

安全衛生委員会・衛生委員会

リンテックグループ国内外の工場・研究所では安全衛生委員会を、また本社、文京春日オフィス、大阪支店などの営業部門のある事業所では衛生委員会を毎月1回開催しています。各委員会には労働組合の代表者も出席し、各拠点長が最終の意思決定を行っています。協議事項は法律で求められている項目を含め安全衛生全般にわたります。従業員の意見も必ず求めるようにしています。委員会で協議した結果を基に、各拠点長の責任と権限で最終決定をします。各事業所で行う安全衛生委員会・衛生委員会では、従業員の意見を議事録に反映させ、従業員に情報を伝達しています。

疾病の発症率あるいはリスクが高い業務に従事している労働者

リンテックグループでは、事業の特性上、罹患のリスクが高い業務に従事する従業員もいるため、それを防ぐための体制を整えています。例えば有機溶剤を使用する職場では有機溶剤作業主任者を選任し、作業の指揮を行い、定期的に作業環境測定を実施、また従事する作業員には、通常の健康診断のほかに特殊健康診断を実施します。そのほかにも色々な特殊作業がありますので、作業に必要な法定資格者の確保や保護具の設置、特殊健康診断などを実施しています。

休業災害ゼロに向けて

作業に潜む労働災害のリスクは、災害発生の可能性や結果の重大性をリスクアセスメントで評価しています。

> 労働安全関連データ [PDF: 1,274KB] 

防災対策

防災・減災対策として、リンテックグループでは、国際規格のISO22301*に基づいた全社BCMS活動を導入し、人命を最優先にしたリスクアセスメントを実施しています。

* ISO22301：地震や火災、ITシステム障害や金融危機、取引先の倒産、あるいはパンデミックなど、災害や事故、事件などに備えて、さまざまな企業や組織が対策を立案し、効率的かつ効果的に対応するためのBCMSの国際規格。

> リスクマネジメント（ガバナンス報告）

社会性報告

地域社会とともに

リンテックグループのCSR活動

リンテックグループでは、地域や社会への貢献活動を行っています。

> [リンテックグループのCSR活動関連データ](#) [PDF : 1,274KB] 

サステナビリティ ガバナンス報告



リンテックグループの社は「至誠と創造」が示すように「法令遵守」と「企業倫理」は経営の最重要テーマです。また、CSRの基盤と位置づけ、経営体制の強化に努めています。

> コーポレートガバナンス

- コーポレートガバナンス・コードへの対応
- 法務教育
- 社外取締役メッセージ

> コンプライアンス

- 人権の尊重
- 公正・透明な取引
- 腐敗防止
- 税務コンプライアンス
- コンプライアンスの推進

> リスクマネジメント

- リスク洗い出し・評価・分析
- 全社BCMS
- 情報セキュリティ
- 内部通報およびハラスメント相談窓口

関連するSDGs



ガバナンス報告

コーポレートガバナンス

リンテックグループは法令遵守を徹底し、経営の透明性と企業倫理の意識を高め、迅速な意思決定および効率的な業務を執行していくことが、コーポレートガバナンスの基本であると考えています。その充実と強化を通じて、グループの企業価値および株主共同利益のさらなる向上を目指していきます。

> [コーポレートガバナンス](#)

※ [株主・投資家情報ページ](#)内に移動します。

コーポレートガバナンス・コードへの対応

リンテックでは、コーポレートガバナンス・コード*の各原則を遵守し、取締役会実効性評価によるPDCAの実施、指名・報酬委員会設置などの取り組みを積み重ねてきました。

今後も引き続き、コーポレートガバナンス・コードを遵守・実施していくことはもとより、社会状況や当社の取り組み状況に照らし、不足と感じる事項は、社外取締役を含む経営層と議論を重ね、継続的な改善に取り組んでいきます。

* [コーポレートガバナンス・コード](#)：コーポレートガバナンスの強化を図り、上場企業が守るべき行動規範の主要な原則を取りまとめたもの。

> [コーポレートガバナンス強化の取り組み](#) [PDF: 494KB] 

法務教育

リンテックでは、企業法務の理解促進に向け、取締役および執行役員を対象とした経営層向け法務研修を実施しています。

また、従業員に対しては、営業職を対象とした法務研修を継続的に実施しているほか、新任管理職や新任監督職を対象とした階層別集合同研修の中に法務講座を取り入れるなど、日常の事業活動に潜む「法的リスク」への感度を向上させ、リスクの早期発見・対応が可能な風土づくりを目指しています。

> [法務研修](#) [PDF: 494KB] 

社外取締役メッセージ

当社のサステナビリティにかかる取り組みの特徴は、「LSV 2030」として2021年度から2029年度という長期ビジョンを掲げ、ESGが会社経営の根幹であることを明示し、経営トップがこれを発信し続けることにあると考えます。3年ごとの中期経営計画を策定し、その中でサステナビリティについても立案する会社は多くあります。当社の場合、そのような中期的な視点だけにとどまらず、10年後の当社のありたい姿を掲げ、その“ありたい姿”に対して3年ごとに会社の持続的成長と会社の社会的な役割につき、両者のバランスをとって経営するということを明示した点が特徴的です。「LSV 2030」として2021年度から2029年度と「長期的、中期経営計画の各Stageで中期的な会社の方向性を示しており、外部に向けた分かりやすいメッセージではないか」と考えます。

加えて、サステナビリティ委員会に社外役員が参加している点も特徴的です。「環境」「社会」「ガバナンス」の三つの切り口のうち、まず「環境」についてはその進捗度合いと社内における問題意識に対して外部目線の意見が入ることになります。次に「社会」「ガバナンス」については客観的數字として評価しづらい項目が並びますが、さまざまなバックグラウンドを持つ社外役員から多様な提案・意見を得ることが期待できると考えます。

私は弁護士として、各企業が有するさまざまな法的課題に取り組んでいますが、最近はサステナビリティにかかる企業の各種施策について外部弁護士としてコメントする機会もいただくようになりました。加えて、私は他社の社外役員としても活動していますので、企業側の立場から同様の検討をする機会も増加しています。「サステナビリティ経営」は目標立案⇒その実行⇒目標と実行のギャップ分析⇒ギャップ分析を踏まえた目標の修正（必要であれば）というサイクルを安定的かつ長期的に持続する必要があります。特に「LSV 2030-Stage 2」においては、「実行」とその「分析」が大きな部分を占めるように思います。外部弁護士としての知見および他社での社外役員の経験を活かして、このサイクルが円滑に進むよう意見を述べていきたいと考えます。



取締役（社外）
大澤 加奈子

経歴
1998年に弁護士登録、梶谷総合法律事務所入所。2005年に米国ニューヨーク州弁護士資格取得。
2015年より当社社外取締役監査等委員。サステナビリティ委員会および指名・報酬委員会の委員。

ガバナンス報告

コンプライアンス

社是「至誠と創造」はリンテックグループの全役員・全従業員の信念であり、具体的に実現するためのガイドラインを「リンテックグループ行動規範」として定めています。私たちはこれを遵守し、高い倫理観と社会的良識を持って行動します。

> [リンテックグループ行動規範（会社方針一覧）](#) [PDF：373KB]

人権の尊重

リンテックグループは人権方針のもとグローバルに展開する事業活動のなかで影響を受ける全ての人の人権を尊重します。

> [リンテック人権方針（会社方針一覧）](#) [PDF：373KB]

リンテックグループでは、人権が尊重された安全で健康な労働環境が確保されていることの確認するために人権および労働に関する実態調査を年1回実施★しています。

調査項目は、法対応や差別の撤廃、人権尊重、児童労働の禁止、強制労働の禁止、賃金、労働時間、従業員との対話・協議、安全・健康な労働環境、人材育成など多岐にわたります。

定期的に調査を行うことで、実態把握とその改善に活用していきます。

★マークについては > [こちら](#)（第三者検証）

公正・透明な取引

リンテックグループでは、全てのお取引先を共に成長していくパートナーと考え、信頼関係を構築します。「独占禁止法・下請法遵守マニュアル」の発行や行動規範ガイドラインに各国における法令を順守することの重要性を記載し意識啓発を行っています。

腐敗防止

リンテックグループは、政治や行政と健全な関係を維持します。企業の政治献金は多くの国において違法とされています。国内外を問わず、公的機関と取引をする場合、その職員へ贈答や接待を行いません。汚職、贈収賄の防止については、行動規範ガイドラインにその重要性を記載し、意識啓発を行っています。

税務コンプライアンス

リンテックグループは、社是「至誠と創造」の理念のもと、所在国、地域あるいは関係国、地域が定めた法令の遵守を徹底し、適正な納税を行っています。

グループ全従業員に配付している「行動規範ガイドライン」に経理処理についての考え方を明らかにするなど、日常取引が適正、適法に行われるよう啓蒙しています。

コンプライアンスの推進

法務関連情報の発信

リンテックグループでは、リーガルニュースを定期発行し、社員への法務関連情報の発信を行っています。また、e-ラーニングを実施し内容の定着を図っています。

> [発行したリーガルニュース](#) [PDF：494KB]

行動規範ガイドラインによる意識啓発

グループ従業員一人ひとりが遵守すべき行動を明示した行動規範を各言語に翻訳した小冊子「行動規範ガイドライン」を全従業員へ配付し、周知徹底しています。

さらに、法的要件や企業の倫理規定を理解し、適切な行動をとるためにこの「行動規範ガイドライン」を使用したCSR勉強会を実施しています。

> CSR勉強会開催実績 [PDF: 494KB] 

りんりかわら版による倫理観の醸成

2006年度よりスタートした「りんりかわら版」は、従業員に求められる倫理観や行動規範を解説つきの川柳にし、イントラネットを通じて、分かりやすく浸透を図る取り組みです。これらの川柳を隔年で小冊子「りんりかわら版 守ってマスカ!?!」にまとめ、国内グループ全従業員に配付しています。行動規範の遵守および倫理観の醸成に役立てるとともに、お客様やお取引先にも紹介しています。

ガバナンス報告

リスクマネジメント

リンテックグループは、グループ全体におけるリスクの把握と発生防止に努め、チャンス（機会）を捉えて生かす行動を根付かせていくために、全社リスクマネジメントシステムの構築を推進しています。

リスク洗い出し・評価・分析

リスク管理体制強化のため、各本部長と社長直轄組織である各室の室長で構成される「全社リスク管理委員会」を設置し、定期的に委員会を開催しています。

同委員会では、主に各委員の課題認識と管理職などを対象に毎年実施しているリスク洗い出しの結果に基づいて、サステナビリティ関連項目を含むさまざまなリスクの評価・分析を行っています。その結果は四半期ごとに「サステナビリティ委員会」で報告され、対応などについての指示を受けています。

各委員会が連携してリスク管理能力の強化に努めるとともに、リスク管理体制の継続的な改善に取り組み、リンテックグループの持続的成長を図っています。

> 全社リスク管理委員会（リンテックグループの考え方、体制）

全社BCMS

リンテックおよび東京リンテック加工（株）では、2014年3月にISO22301*1の認証を取得し、地震をはじめとするさまざまな災害発生時に、人的被害を最小限にとどめ、早期に事業を再開できるよう、BCMS*2を運用しています。

震災が発生した際に、社員が自分の役割を認識し予め定めた行動手順に沿って自主的に行動できるようe-ラーニングによる教育の実施に加え、事業内容や拠点の特性に応じた演習も盛んに行われています。

各拠点におけるBCMSの運用状況は内部監査で確認しており、従業員の意見や改善案は全社BCMS評議会で協議し、全社的な取り組みへと反映しています。

*1 ISO22301：地震や火災、ITシステム障害や金融危機、取引先の倒産、あるいはパンデミックなど、災害や事故、事件などに備えて、さまざまな企業や組織が対策を立案し、効率的かつ効果的に対応するためのBCMSの国際規格。

*2 BCMS：Business Continuity Management System（事業継続マネジメントシステム）の略称。企業の重要な製品またはサービスに重大な影響を与えるインシデント発生の際に「事業を継続」するため、組織の現状を理解して事業継続計画を策定し、演習により計画の実効性評価を行い、システムを運用するマネジメント手法。

情報セキュリティ

リンテックでは「情報セキュリティ管理規程」を策定しています。また、e-ラーニングによる情報セキュリティ自己監査を実施し、情報管理に関する従業員の理解促進と意識向上に努めています。

内部通報およびハラスメント相談窓口

リンテックグループでは、重大な法令違反・倫理違反を発見した際に、不利益を受けることなく通報できる窓口として、ヘルプライン（内部通報制度）を設けています。窓口には第三者機関である弁護士が加わっており、通報者とその内容が保護されたまま、迅速な調査が行える体制を整えています。また、職場環境の改善を図るための「ハラスメント相談窓口」を設置し運用しています。

サステナビリティ その他の開示情報

会社方針一覧

リンテックグループの活動指針となる会社方針一覧を掲載しています。

> 会社方針一覧 [PDF : 373KB] 

報告方針

報告対象範囲や参考ガイドラインなど本サステナビリティサイトの報告方針を掲載しています。

> 報告方針 [PDF : 417KB] 

ESGデータブック

2024年8月、リンテックグループのESG関連データをより分かりやすく開示するため新たにESGデータブックを作成し、掲載しています。今後も開示情報の充実を図ります。

> ESGデータブック [PDF : 2,325KB] 

GRI内容索引

リンテックグループが開示している取り組みとGRIスタンダードの対照表を掲載しています。

> GRI内容索引 [PDF : 313KB] 

第三者検証

サステナビリティ報告に対する第三者検証意見書を掲載しています。

> 第三者検証 [PDF : 900KB] 

外部評価

ESG関連評価について掲載しています。

> 外部評価 [PDF : 422KB] 

サステナビリティレポート／その他関連情報

最新のサステナビリティレポート（他言語版を含む）やバックナンバー、当社統合報告書などについて掲載しています。

> サステナビリティレポート／その他関連情報

最新のサステナビリティレポート／その他関連情報



日本語版 [PDF: 5,505KB] [📄](#)

> e-book [📖](#)

> 英語版：日本語版全文翻訳 [PDF:6,539KB] [📄](#)

> 韓国語版 [PDF: 4,407KB] [📄](#)

> 中国語版（繁体字） [PDF: 4,874KB] [📄](#)

> 中国語版（簡体字） [PDF: 4,814KB] [📄](#)

> マレーシア語版 [PDF: 4,735KB] [📄](#)

> インドネシア語版 [PDF: 4,608KB] [📄](#)

> タイ語版 [PDF: 4,561KB] [📄](#)

> ベトナム語版 [PDF: 4,629KB] [📄](#)

> スペイン語版 [PDF: 3,856KB] [📄](#)

※ 韓国語・中国語（繁体字・簡体字）・マレーシア語・インドネシア語・タイ語・ベトナム語・スペイン語は、日本語版から内容を抜粋し、制作しています。

統合報告書

各年度の統合報告書をご覧ください。

> 統合報告書

※ 株主・投資家情報ページ内に移動します。



バックナンバー

サステナビリティレポート2023



> 日本語版 [PDF: 4,441KB] [📄](#)

> 英語版：日本語版全文翻訳 [PDF:6,073KB] [📄](#)

> 韓国語版 [PDF: 4,055KB] [📄](#)

> 中国語版（繁体字） [PDF: 4,953KB] [📄](#)

> 中国語版（簡体字） [PDF: 5,414KB] [📄](#)

> マレーシア語版 [PDF: 3,824KB] [📄](#)

> インドネシア語版 [PDF: 3,706KB] [📄](#)

> タイ語版 [PDF: 4,057KB] [📄](#)

※ 韓国語・中国語（繁体字・簡体字）・マレーシア語・インドネシア語・タイ語は、日本語版から内容を抜粋し、制作しています。

サステナビリティレポート2022



- > 日本語版 [PDF: 5,675KB] [📄](#)
- > 英語版: 日本語版全文翻訳 [PDF: 4,634KB] [📄](#)
- > 韓国語版 [PDF: 2,914KB] [📄](#)
- > 中国語版 (繁体字) [PDF: 3,661KB] [📄](#)
- > 中国語版 (簡体字) [PDF: 3,522KB] [📄](#)
- > マレーシア語版 [PDF: 2,937KB] [📄](#)
- > インドネシア語版 [PDF: 2,978KB] [📄](#)
- > タイ語版 [PDF: 2,534KB] [📄](#)

※ 韓国語・中国語 (繁体字・簡体字)・マレーシア語・インドネシア語・タイ語は、日本語版から内容を抜粋し、制作しています。

CSRレポート

- > CSRレポート2021 (日本語版) [PDF: 6,089KB] [📄](#)
- > CSRレポート2020 (日本語版) [PDF: 6,337KB] [📄](#)
- > CSRレポート2019 (日本語版) [PDF: 5,739KB] [📄](#)
- > CSRレポート2018 (日本語版) [PDF: 8,507KB] [📄](#)
- > CSRレポート2017 (日本語版) [PDF: 10,653KB] [📄](#)
- > CSRレポート2016 (日本語版) [PDF: 13,669KB] [📄](#)
- > CSRレポート2015 (日本語版) [PDF: 13,274KB] [📄](#)
- > CSRレポート2014 (日本語版) [PDF: 14,347KB] [📄](#)
- > CSRレポート2013 (日本語版) [PDF: 13,284KB] [📄](#)
- > CSRレポート2012 (日本語版) [PDF: 13,864KB] [📄](#)
- > CSRレポート2011 (日本語版) [PDF: 3,795KB] [📄](#)
- > CSRレポート2010 (日本語版) [PDF: 3,156KB] [📄](#)

下記についてご希望のお客様はお問い合わせページよりご連絡ください。

- CSRレポート2010～2021 英語版 (日本語版全文翻訳)
- CSRレポート2010～2021 他言語版* (日本語版抜粋翻訳)
- CSRレポート2008・2009 日本語版
- 環境・社会報告書2006・2007 日本語版
- 環境報告書2004・2005 日本語版

* CSRレポート2013～2021: 韓国語・中国語 (繁体字・簡体字)・マレーシア語・インドネシア語、タイ語
CSRレポート2010～2012: 韓国語・中国語 (繁体字・簡体字)・マレーシア語・インドネシア語

※ いずれもストレージサービスなどによるPDF版の送付となります。

> お問い合わせページ

※ お問い合わせページ内へ移動します。